

平成 26 年 10 月度県内産業景気動向調査結果

この調査結果は、中小企業庁の指定事業に基づいて設置された山口県内の情報連絡員 60 人に、本会が新たに選んだ 20 人を加えた 80 人の連絡員より業界動向を把握した結果です。

10月においては、景況感が改善し受注や売上が増加しているという報告が、一般機器、輸送機器、サービス業及び運輸業の一部から寄せられている。一方で、繊維、木材・木製品、印刷、窯業・土石製品、卸売業、小売業、商店街からは、端境期や消費税増税後の消費の落ち込み等による受注や売上げが減少するなど一進一退の状況にある。

景気の回復感がある一方で、消費の低迷による収益の悪化を懸念する声があり、依然として先行きが不透明な状況である。

山口県の主要指標 DI 値（平成 26 年 10 月末現在）

※DI 値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

- 業界の景況**（〈 好転 〉 - 〈 悪化 〉 = 〈 DI 値 〉）
 前年同月比は、好転：11.3% 悪化：28.8% DI 値：▲17.5% ポイント
- 売上高**（〈 増加 〉 - 〈 減少 〉 = 〈 DI 値 〉）
 前年同月比は、増加：17.5% 減少：35.0% DI 値：▲17.5% ポイント
- 収益状況**（〈 好転 〉 - 〈 悪化 〉 = 〈 DI 値 〉）
 前年同月比は、好転：12.5% 悪化：35.0% DI 値：▲22.5% ポイント

山口県の業種別 DI 値(業界の景況)（平成 26 年 10 月末現在）

 30 以上	 30 未満～ 10 以上	 10 未満～ ▲10 以上	 ▲10 未満～ ▲30 以上	 ▲30 未満
--	--	---	--	---

食料品	織 維 工 業	木材・ 木製品	印 刷	窯業・ 土石製品	一 般 機 器	輸 送 機 器	全 製 造 業
▲42.9	▲25.0	▲66.7	▲100.0	16.7	11.1	0.0	▲18.2
							

卸売業	小売業	商店街	サービ ス 業	建設業	運輸業	全 非 製造業
20.0	▲33.3	▲50.0	▲33.4	30.0	▲42.9	▲17.0
						

全 体
▲17.5 

特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	最低賃金が上昇し、パートに頼ることが多い組合員は負担増。14円（一人当たりの1時間上昇分）×80時間（一人当たりの平均月パート勤務時間）＝1,120円（一人当たりの1か月上昇分）。	パン・菓子製造業
	9月の売上は+19.7%で大幅アップ。上半期4～9月累計も前年同期比+13%と好調に推移。10月は10/23時点で前年同月比+10%と依然高水準の売上が継続している。もろもろの要因が複合しての好成績であるが、全国TV放送などメディア露出の効果が最も大きいと分析している。日経ビジネス11/24発売号、「日本のイノベーター」特集に大きく登場予定。	水産食料品製造業 萩市
	夏からの動きが少ない。円安が進み、さまざまな物が値上がりをするので全体的に消費が落ち込んでいる雰囲気がある。今後の動向が不安である。また、近年原料の入手が難しく、事業を継続していくのを考えるまでに至っている。	水産食料品製造業 下関市
	山口県の作況指数は、96と発表があり通年より下落し、収穫量の減少が見込まれる。また、昨今の米余り基調に伴い、本年度の米の取引価格について、大幅な下落となることが、JAから公表された。平成24年産と比較すると、1俵単価で5,000円程度、約40%の価格の下落となるとのことなので、大幅な業績悪化となる。	精穀・製粉業
繊維工業	納入先の販売状況は相変わらず良くない。組合員企業も以前にも増して経営が厳しい。当面明るい材料がない。繊維関係の製造は国内から海外移転が定着し、国内企業は今後も縮小の傾向が一層進みそうである。	下着類製造業
	景況感は良くない。	外衣・シャツ製造業 山口市
	9月までの受注の状況は良かったが、10月に入り端境期となり、店舗の商品の動きも鈍い模様で、仕事が減少気味である。	外衣・シャツ製造業 下関市
木材・木製品	依然として低調に推移。	製材業・木製品製造業 山口市
	例年であれば、秋の需要で売上高も増える時期であるが、消費税増税前の駆け込み需要の反動がまだ続いているのか、売上高も全体的に減少している。	製材業・木製品製造業 下関市
印刷	消費税増税直後の4月～6月は何とか持ちこたえたが、7月以降は引き合いが減っているように感じる。	印刷 下関市

	9月に若干持ち直したように見えたが、10月は前月、前年同月に比べ最低の数字になった。11月も今のところ良い情報は入ってこない。	印刷 山口市
窯業・土石製品	昨年と比べると全体的に出荷数量は減っている。岩国支部の砕石業者が倒産して、事実上、岩国支部がなくなり、今は中部支部が仕事を一部請け負っているが、運搬距離があるため、利益はあまり期待できない様子。こういった中でも仕事のある組合員では、積極的に雇用をしている模様。	砕石製造業
	出荷量は、前月比126%、前年同月比90%。現時点では、セメント・骨材等の調達に特に問題ないが、砂・砂利・セメントなど原材料価格の値上げの圧力は高まりつつある。	生コンクリート製造業
一般機器	10月は、9月と同じ景況である。自動車関連では、来年の新規車種開発計画を受けて既に受注活動を始めている模様。構造物製造関連は引き続き、学校の耐震化や大型ドラッグストアの新店舗建設などで活気を持続している。雇用は、相変わらず求人難。組合全体では、年内はプラス面が多いように見受けられる。	一般機械器具製造業 防府市
	先月と同様に、機械製造関係、食品加工、スーパー等の人手不足から、外国人技能実習生の早期受け入れの相談があった。しかし、実習生の場合は、入国まで6ヶ月位必要となるので、つなぎのための臨時職員の紹介を依頼されることも多い。ハローワークに登録しても臨時職員の確保も難しく、一部、派遣頼みの企業もある。	一般機械器具製造業 宇部市
	金属素材関係の製造業の売上高が増加傾向。	一般機械器具製造業 宇部市
	金型の生産状況は、10月の設備操業度は9月に比べ上昇。マシニングセンターが主流だが、放電加工機・ワイヤー加工機も稼動が上がって来ている。11月は10月と同様に上がる見込みである。12月生産分の受注は何とか確保出来つつある。来年に向けて、まだ不安要素は多々有るが、受注活動を進める予定である。成形製品の生産状況は、新規案件の製品売上が少しずつ上昇傾向にあり貢献し始めているが、既存の民生部品（家電部品、電子部品）の売上が伸び悩み、全体では前年同月並みの売上となっている。	特殊産業用機械製造業
輸送機器	人材不足が継続中。	船舶製造・修理業
	鉄道車両部門は先月の積み残しもあり作業量が増加している。精密加工部門はまだ上昇の気配はなく様子見であるが、見通しは明るくなってきている。産	鉄道車両・同部品製造業

	業プラント部門は生産が軌道に乗り数ヶ月間繁忙が続く見込み。	
卸売業	ガソリン価格が約5円程度（161円→156円）値下がりし経費削減となっている。建築関係の卸では、消費税駆け込み需要等の建築工事がほとんど終わり工事が減少して、出荷減となり、今後の見通しが立たない状況で苦慮している。	各種商品卸売業
	消費税増税後、前年と比べ6か月間連続して売上高が減少している。これは偏に販売不振によるものであるが、加えて台風・雨・日照不足等の天候不順も影響しており、来年の収穫量も心配される。	乾物卸売業
	本格的なふぐシーズンに入り、取扱量は少しずつだが上向いている。天然ふぐは少なく、養殖ふぐが多い。最近は天候が安定しているので量は順調だが、水温が高いため魚種類に変化がある。	生鮮・魚介卸売業
小売業	化粧品業界は秋の新製品やメーキャップ品の新色等が発売され、少しずつではあるが商品が動き出している。これからは、冬季限定商品の予約活動で忙しくなりそう。	化粧品小売業
	組合員事業所については9月と同じで厳しい状況。消費税10パーセントへの移行は不可能との意見が強い。ここにきて円安の影響で輸入品も高騰し経営に悪影響が出てきている。地方経済は回復感を味わえないまま低迷状態にある。アベノミクス第3の矢の成長戦略に期待したい。組合員はポイント5倍セールを12月8日から13日に実施するので年末商戦に期待している。域内の人口が減少し消費者が減り、売上減少の要因となっている。求人倍率が上昇しているが雇用のミスマッチあり域内の中小企業者（特に建設・警備・介護・飲食業）では引き続き人手不足が続いている。	各種商品小売業 岩国市
	パークタウン周南の形成に向けて、銀座通りでは歩行者優先道路化の社会実験を実施、ファイナルで「のんた祭り」を徳山港付近で開催など、新しい街づくりが始動した。	各種商品小売業 周南市
	新聞等で報道されているように、個人消費は当地方でもかなり低迷の度合いを増してきている。9月は休日が前年より1日少なかったことと天候に恵まれなかったことで、前年同月比で1.9%のみのプラスであったが、10月はマイナスとなる見込み。	各種商品小売業 山口市
	先月同様、既存店ベースでは、ほぼ前年並みだが、全体売上、来店客数にすると、かなり下回る状況。	各種商品小売業 長門市

商店街	平日の客数は少ないが、休日には家族連れなども多くみられ、9月よりは客数と売上が少しばかり良かった。11月はイベントもあり期待できそう。	山口市
	生鮮食品の仕入単価は多少上がっているが、販売価格に反映できないのが実情。生産者との直接取引も多少あり、中間マージンのことを考えるとこの方が収益がでる取引先のはずが、生産者の厳しい状況を聞くと市場（いちば）等より高い仕入単価での取引となってしまう。呉服は、少子化の影響で売上については、わずかながら減少。消費税の増税、10%への移行は、絶対反対。価格に転嫁もできず、消費もさらに落ち込む。	萩市
サービス業	例年、9・10月は売上の少ない時期だが、それ以上に少しずつ縮小傾向で、真綿で首を絞められている状況。これからも消費税増税等の不安要素が沢山あるため、なるべく現金を残すようにしているように思える。今回の電力会社による電気買い取り中断の例のように、状況が覆るといふ不安要素も加わって、その傾向が顕著に現れ、必要不可欠以外の出費が引き締められている。年末に向け対策を練る必要がある。	美容業
	組織強化に取り組んでいるが効果がない。組合にしかできない事業はないものかと、模索中。	理容業
	消費税増税前の駆け込み需要で新車販売が増加した影響により、上半期（4月～9月）の車検台数が対前年比で5%減少した。整備専門業者にとって売上の約5割を占める車検台数の減少は影響が大きい。	自動車整備業
	売上高は前月と比べ横ばいで、前年度ほど好転していない。来月以降もあまり上昇は見込めず、横ばいで推移すると思われる。徳山、岩国地区で新卒及び中途採用を考えている企業があるが、なかなか応募がない。	
	フィットネスジムでは、65歳以上の男性会員が増加傾向にある。キャンペーンの出足が鈍く、前年比で若干少なめ。スイミングでは、8月の天候の影響で短期水泳教室の集客が良くなく、そのリカバリーが出来ていない。	スポーツ・健康教授業
	地元宴会等の利用が少なく、週末の台風の影響で観光客が減少し売上等は減少傾向であったが、前年同月を大きく落とした施設はあまりない。ビジネスホテルなども客室稼働率・室単価など概ね、前年同様で、施設間の差はあった。11月に期待をしている。	旅館業 下関市
	10月の売上高は減少。人件費及び修繕費等の削減により経費削減は若干改善している。社債の解約等があり資金繰りが厳しくなった。飲食部門の売上高	旅館業 長門市

	の減少が著しい。	
	売上の安定には、ひと工夫が必要な様子。周南地区では、一膳3,900円の懐石が好調という話だが、客単価のアップはなかなか思い通りにはいかない。夜の宴会も多少の回復がみられるものの一段落している状況。山陽側の方が回復基調であるが、底上げにはもう少し時間がかかる。山陰側は厳しい状況で、来年度は大河ドラマ「花燃ゆ」の“文ちゃん”頼りである。寒い時期を迎え、「ノロウイルス」の食中毒が大変心配である。	飲食業
	先月に引き続き好調を維持。前年同月比でもこの時期としては、かなりいい収益を見込めそう。この時期にはあまり出ないクリーニング（布団や冬物衣料）も集まり、夏場の天候不順や、消費税増税の影響で出すことを控えたものや、出しそびれたものではないかと考えられる。また夏物衣料品のクリーニング加工として浸透しつつある「汗抜き」、「ダブルクリーニング」などをこの時期に上手に売り込んでいるお店は収益状況も客数もよい傾向。	普通洗濯業
建設業	中電への工事申請は9月304件（当支部分177件）、前年同月237件（同198件）。太陽光発電への申請36件、オール電化申請50件（前年は太陽光45件、オール電化60件）。LED街路灯への切替・新設申請は21件（前年55件）であった。	電気工事業
	技能者不足の中で建設業専門工事業者の受注単価は改善されつつある。さらには躯体業者（型枠大工／鉄筋）の受注単価は大幅に回復しているが仕上業者の回復は鈍い。多くの工事現場で工程の遅れが目立ち、仕上工事業者の負担が大きくなっている。	左官業
	組合員の業況は好転していない。講習会や安全大会の参加協力がなかなか得られない状況。土木技術者のCPDS（継続的専門能力啓発システム）は、入札時の加対象であるので参加があるが、国・県の施策には反応が鈍い。財政上の余裕もない状態であるのも一因であろう。	土木工事業 柳井市
	10月の受注高は、対前年同月比659%。今年度の累計では、対前年比486%。	土木工事業 萩市
	仕事はあるが、人材不足で賄えない状況が続いている。今年の発注は8月頃に集中して今はとても忙しい。11月中旬からは2月末工期が多いため、発注量が激減する。	管工事業

<p>運輸業</p>	<p>国内輸送、輸出とも横ばいの傾向で、鉄鋼素材の輸送も一段落の感がある。長距離ドライバーは依然として不足しており、ハローワークに募集依頼をしても志望者は少なく敬遠されており輸送業者にとっては悩みの種となっている。対前年同月比で売上高は約21%の減少となっている。油価格は10月に入り2.2円の値下げがあったが、高止まりのままで、運賃も据え置きのままとなっており、輸送業者の運営上の最大の悩みとなっている。</p>	<p>一般貨物自動車運送業 下松市</p>
	<p>9月に続いて10月の売上も昨年水準を下回った。9、10月と原油価格の下落に伴い1リットル当たり4～5円程燃料価格が値を下げたが依然高い水準にある。円も再び安値方向にあり、原油も地政学的な問題でどう転ぶか分からず、燃料サーチャージもなかなか思うようには進まない。</p>	<p>一般貨物自動車運送業 防府市</p>
	<p>物流部門は好況で9、10月でかなりの利益がでている。内容は、運送業務も安定して受注しているなかで、倉庫業は鉄鋼関連原材料の保管案件が非常に増えてきており、自社倉庫が溢れて外部倉庫を賃借して対応している程である。近辺の倉庫会社も同じような状況の様で、空き倉庫が出てもすぐに借り手が見つかる状態である。</p>	<p>一般貨物自動車運送業 宇部市</p>
	<p>業界の景気は最悪の状況である。消費税増税や気候の条件による災害等もあり良い事が無く、円の値下がりや株価の値下がり等が後に影響すると予想している。仕事量は減ってきており組合員の事業も下り気味だが、組合のETC事業は順調に推移している。</p>	<p>一般貨物自動車運送業 下関市</p>
	<p>タクシーチケットの取扱い金額は、前年比+3.1%（平成26年9月1日～平成26年10月20日分）。9月1日～30日分は+3.2%、10月1日～20日分は+2.8%となった。消費税込みの金額なので、税抜きの金額では、ほぼ前年同額の売上である。前年同期が△7.1%と大幅な減少だったので、今後増加に転ずるかどうかは、まだまだ予断を許さない。当組合の取扱いの防府地区は前年より増加、光市地区は若干の増加、周南はほぼ前年並み、下松地区は減少している。主要燃料であるLPGについては、CP（通告価格）と為替に連動して変動。ブタン、プロパンのCPは前月分よりもさらに下降したが円安が進んだため、購入単価は先月よりも1%上昇。前年10月分に比べ+2%高値。今回はほぼ前年並みの収入になりましたが、長く続いた売上減少により、タクシー事業者も乗務員も疲弊している状況で、乗務員の収入も減少しており、高齢者の退職もあって、どのタクシー事業者も、乗務員確保が</p>	<p>一般旅客自動車運送業</p>

	たいへん難しい様子。今後の売上が安定するかどうかは疑わしい点が多く、(新規得意先による一時的な利用増加が多い事) 年末の繁忙期が大いに気がかり。	
	小野田港の荷動きは若干良くなってきており、今後に期待したい。	港湾運送業